

野川の生きものガイドブック



野川流域連絡会 生きもの分科会

このガイドブックは、野川周辺の生きものを通じて身近な自然に親しみ、よりよい川づくりを考えていただきたいと思ってつくりました。

図鑑のようにたくさんの種類は載っていませんが、野川周辺でよくみられる生きものを掲載しています。

皆さんがこのガイドブックを手にして、生きものの視点から野川を見守っていただければ幸いです。

目次

植物.....	1
水生動物など.....	10
昆虫.....	17
鳥類.....	22

注意：名前のあとに **外** がついているのは、外来種を示します。
また、**特** がついているのは、特定外来生物を示し、飼養、栽培、保管、運搬、輸入などが規制されています。

■ニワゼキショウ 外



北アメリカ原産。明治中期に渡来した高さ10~20cmの多年草。日当たりのよい芝生や道ばたなどに生える。葉がセキショウに似ることから名がついた。花期5~6月

■ヒメガマ



ガマに似るが、葉が細い。雌花と雄花の間があいている。花期6~8月

■カヤツリグサ



畑や荒地などに生える高さ20~60cmの一年草。茎を割いて立方型にし、蚊帳に見立てたことから名がついた。花期8~10月

■ウキヤガラ



浅い水中に生える多年草。高さ1~1.5mになる。枯れた茎が水に浮くのを矢幹（やがら）にたとえたことから名がついた。花期7~10月

■イヌムギ 外



南アメリカ原産。世界中に広がる。日本には明治初期に渡来した。有用でないことから犬麦の名がついた。花期4~7月

■カモジグサ



道ばたや畑の縁などに生える高さ40~100cmの多年草。花に長いノギがあり、ちぎって人形のかもじ（付け毛）に見立てたことから名がついた。花期5~7月

■ネズミムギ 外



ユーラシア原産。明治時代に牧草として渡来した高さ40~70cmの一~二年草。緑化にも使われた。花期6~8月

植 物

■ヨシ (アシ)



池沼、川岸などに生える高さ2~3mの大型の多年草。アシともいうが、「悪し」に通じることからヨシと呼ぶ。花期7~10月

■カゼクサ



日当たりのよい乾いた場所に生える高さ30~40cmの多年草。根は地中に深く入るため抜きにくい。花期8~10月

■クサヨシ



水辺や湿地に生える多年草。ヨシに似るが、小型で柔らかい。花期8~10月

■チカラシバ



日当たりのよい草地に生える高さ50~80cmの多年草。土にしっかり根を張り、引き抜けないことから力芝の名がついた。花期8~11月

■エノコログサ



日当たりのよい道ばたや荒れ地などに生える高さ30~80cmの一年草。近縁にキンエノコロ、アキノエノコログサなどがある。別名ネコジャラシ。花期8~11月

■メヒシバ



道ばたなどに生える高さ30~90cmの一年草。強い日差しの中でも繁茂することから日芝（ヒシバ）の名がついた。花穂はオヒシバに比べて細い。花期7~11月

■オヒシバ



日当たりのよい道ばたや草地に生える高さ30~60cmの一年草。茎や葉が丈夫なことからチカラグサとも呼ぶ。花期8~10月

■イヌビエ



荒地や水辺に生える一年草。名は食用にならないヒエの意味。花期8～10月

■ケイヌビエ



水辺や湿地に生える一年草。イヌビエに似るが、花に長いノギがある。花期8～10月

■ススキ



日当たりのよいところに生える多年草で、大きな株になる。花には、長いノギがある。花期7～10月

■オギ

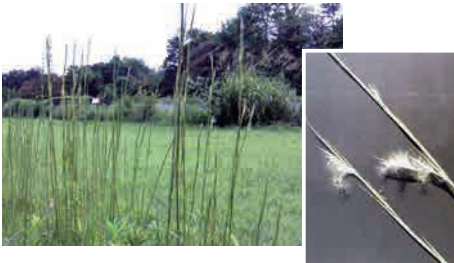


河原や水辺などに生える多年草。一本ずつ茎を立てて群落になる。花には、ノギがない。花期9～10月

■ススキ（上）とオギ（下）の花



■メリケンカルカヤ 外



北アメリカ原産。高さ50～100cmの多年草。戦後、都市周辺を中心に広がった。日当たりのよい河原や荒地などに生える。花期9～11月

■ジュズダマ 外



熱帯アジア原産。水辺に生える高さ2mになる多年草。花期9～10月

植 物

■セイバンモロコシ 外



地中海沿岸原産。
荒地などに広がり
高さ1~2mになる。
花期7~9月

■ケキツネノボタン



水辺や田のあぜなど湿地に生える多年草。
食用になるセリに少し似ているが、毒草な
ので注意が必要。よく似ているキツネノボ
タンには草体に毛がない。
花期3~7月

■ミソソバ



水辺に生える一年草。水辺に生え、葉の形
がソバに似ていることから名がついた。
花期3~7月

■イヌタデ



道ばたや荒地などに生える高さ20
~50cmの一年草。小さな赤い花を赤飯に
見立ててアカマンマと呼ぶこともある。
花期6~10月

■ギシギシ



少し湿った場所に生える高さ60~100cmの
多年草。若芽は食用、根は薬用になる。枯れ
た種を手でもむとギシギシする。花期6~8月

■イタドリ



山野に多くみられる高さ50~150cmの多
年草。春に出るタケノコに似た若芽は酸味
があり食べられる。花期7~10月

■ユウゲシヨウ 外



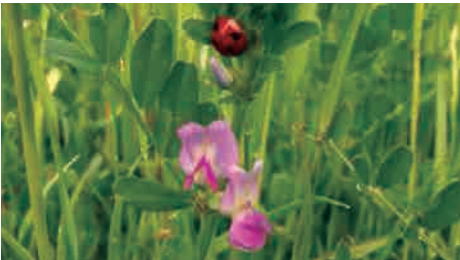
南アメリカ原産。高さ20～60cmの多年草。淡紅色の花を夕方咲かせることから名がついた。アカバナユウゲシヨウともいう。花期5～9月

■ムラサキツメクサ 外



ヨーロッパ原産。明治初期に牧草として渡来した。シロツメクサより大きく、茎は直立して高さ20～60cmになる。花期5～8月

■カラスノエンドウ



道ばたや畑など日当たりのよいところに生えるつる性の二年草。豆が熟すと黒くなることから名がついた。若芽をてんぷらにする。花期3～6月

■シロツメクサ 外



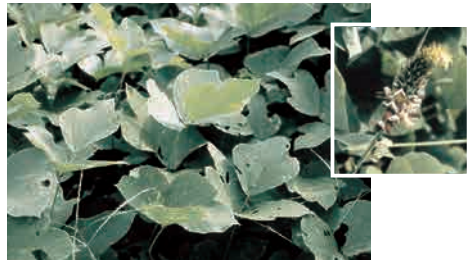
ヨーロッパ原産。世界中に広がった多年草。オランダからガラス器を日本に送るときに干したものを詰めたことから名がついた。茎は地を這うように生える。花期5～8月

■メドハギ



日当たりのよい草地や道ばたに生える多年草。高さ60～100cm。茎はやや木質化する。花期8～10月

■クズ



山野のいたるところにみられる大型のつる植物。茎の基部は木質になり、根には多量の澱粉を含み、くず粉の原料がとれる。花期7～9月

植 物

■ヘビイチゴ



少し湿った場所に
這うように生える
多年草。赤い野イ
チゴのような実を
つけるが、食べて
もおいしくない。
花期4～6月

■ナズナ



道ばたや畑などに生える高さ10～40cm
の二年草。種が三味線のパチに似ている
ことからペンペン草ともいう。春の七
草のひとつ。花期3～6月

■タネツケバナ



少し湿った場所に群生する高さ20～30cm
の二年草。稲の種を水に浸けて苗代の準備
をする頃に咲くことから名がついた。
花期4～6月

■アレチウリ 特



北アメリカ原産。つる性の一年草。
河原の泥地や土手などに群生する。実には
とげがある。花期7～10月

■オランダガラシ (クレソン) 外



ヨーロッパ原産。流水や湿地に生える高さ
20～50cmの多年草。食用、ステーキの付
け合わせなどに使う。
花期6～7月

■ワルナスビ 外



北アメリカ原産。高さ50～100cmの多年
草。昭和初期に渡来した。とげが多く害草
とされる。花期6～10月

■ヒメオドリコソウ 外



ヨーロッパ原産。明治中期に渡来した。高さ10~20cmの二年草。東京周辺に多い。茎は四角形で春告げ草のひとつ。花期4~5月

■ホトケノザ



道ばたや畑などに生える高さ10~30cmの二年草。春告げ草のひとつ。葉が段状につくことから蓮座に見たて、仏の座の名がついた。花期3~6月

■オオバコ



日当たりのよい道ばたや荒地などに多い多年草。葉が広く大きいことから名がついた。葉は地を這うが、高さ10~20cmの茎に花をつける。花期4~9月

■オオイヌノフグリ 外



ユーラシア、アフリカ原産。二年草。明治中期にみつきり、全国に広がっている。春告げ草のひとつ。花期3~5月

■カワヂシャ



川岸や田のあぜなどに生える高さ20~60cmの二年草。若葉は食べられる。花期5~6月

■セリ



湿地、水田などに生える多年草。春の七草のひとつで、若い芽は香りと歯ごたえがよく、おいしい。花期7~8月

植 物

■ヨモギ



山野に多く生える高さ50~120cmの多年草。香りがあり、春の若芽は草餅に入れてんぶらにする。葉の綿毛を乾燥したものはお灸のもぐさになる。花期9~10月

■カントウヨメナ



田のあぜや川べりなどに生える高さ50~100cmの多年草。ヨメナの仲間はよく似ているため区別が難しい。花期7~10月

■ヒメジョオン 外



北アメリカ原産。明治維新の頃渡来し日本中に広がった一~二年草。高さ30~100cmの茎の中には白い髓が詰まっている。花期6~10月

■ハルジオン 外



北アメリカ原産。大正時代に園芸植物として渡来した。ヒメジョオンに似るが、茎は中空で高さ30~100cmになる多年草。花期5~7月

■セイタカアワダチソウ 外



北アメリカ原産。高さ2~3mの多年草。土手や荒れ地に多い。花期10~11月

■アメリカセンダングサ 外



北アメリカ原産。高さ50~100cmの一年草。湿り気のある荒れ地や道ばたに多い。種には鋸歯があり衣服につくと取れにくい。花期9~10月

■イヌキクイモ 外



北アメリカ原産。多年草。
キクイモに似るが、根の先がイモにならない。
荒地に多い。
花期7～8月

■ノゲシ



道ばたや畑の縁などに生える高さ50～100cmの二年草。
葉がゲシに似ていることから名がついた。
花期4～7月

■オオブタクサ 外



北アメリカ原産。
高さ2～3mの一年草。クワモドキともいう。
河原や造成地に多い。
花期8～9月

■セイヨウタンポポ 外



ヨーロッパ原産。多年草。
明治時代に渡来し、都市周辺では普通種になっている。
日本のカントウタンポポとは本種の総苞外片（花のつぼみを包んでいる葉）が反り返ることで区別する。
花期3～9月

水生動物など

■タイワンシジミ 外



2cm前後。マシジミに似るが、外来種である。砂地に潜っている。あまりおいしくない。

■カワニナ



殻高3cm程度になる。雌雄異体。50～100個の仔貝を産む。ゲンジボタルの幼虫の餌として知られる。比較的きれいな水を好む。

■サカマキガイ 外



殻高10mm程度。雌雄同体。ヨーロッパ原産。殻は薄く左巻き。水質汚濁や乾燥に強い。エラはなく空気呼吸をする。

■イトミミズ類



全長5cm程度。有機物の多い泥底を好む。頭を下にして泥に潜り、体を水中でゆらす。

■シマイシビル



全長4～4.5cm程度。雌雄同体。汚れた水にもすむ。小さな昆虫やミミズ類などを食べる。

■タンスイカイメン科



表面の穴から水と一緒に小さな有機物の断片や細菌などを吸い込んで食べる。

■ミズムシ



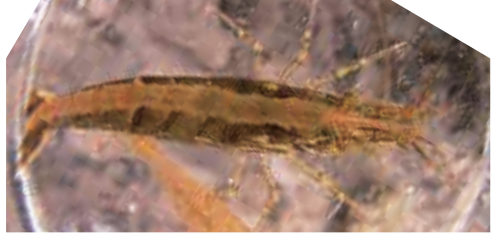
体長10mm程度。落ち葉などを食べる。汚れた水にもすむ。メスは腹に卵・仔虫を抱える。

■スジエビ



体長5cm程度になるやや大型のエビ。小型のテナガエビに似ているが、スジが明瞭である。水際の草の中よりも淵や淀みの大き目の石の周囲に棲んでいる。やや肉食性の強い雑食。

■カワリヌマエビ属



体長は2~3cm。水際の水没した草の中に多数生息している。野川では釣りの餌として持ち込まれた外来種のシナヌマエビが多くを占めている。また、国内移入種であるミナヌマエビとの交雑も進み、判別のつかない個体も多い。赤い個体や黒い個体などのバリエーションが非常に多い。

■テナガエビ



大きなものでは10cmを超える。河口域~中流域に多い。大きな“手”は第一脚ではなく、第二脚である。獰猛で、他の魚と飼育すると襲うこともある。唐揚げなどにするとおいしい。

■アメリカザリガニ 外



北アメリカ東南部原産。体長10cm程度。メスは腹に卵を抱き、稚エビを守る。雑食性で水質汚濁に比較的強い。

■サワガニ



甲幅2~3cm。日本固有種。他のカニと違い、淡水にのみ生息する。子ガニになるまで母親のおなかで育つ。野川の本流には少ないが、湧水域に生息している。赤い個体が多いが、青い個体もいるのは、餌による違い。

■モクスガニ



人の手のひらほどの大型のカニ。ハサミにその名のおり毛が生えているのが特徴。中国で人気の上海ガニ（チュウゴクモクスガニ）の近縁種でおいしい。海で産卵し、稚ガニは上流域にまでさかのぼることがある。

水生動物など

■オイカワ（婚姻色のついたオス）



全長12～15cm。関東ではヤマベともいう。川の中下流、湖沼などにすむ。水質汚濁に比較的強い。

■ヌマムツ（婚姻色のついたオス）



全長14～20cm。元々は西日本の魚。アユなどの稚魚に紛れて西日本から東日本へ広がっている。雑食。タモロコに似るが口ひげはない。オイカワよりは水質汚濁に弱い。

■タモロコ



全長5～9cm。一对の口ひげがある。関東での分布が自然のものか移植によるものか、はっきりしていない。河川や池沼などのゆるい流れを好む。

■モツゴ



全長4～8cm。東京ではクチボソともいう。口先から尾まで黒い線が走るが、個体によってはないものもある。雑食性で、水質汚濁に比較的強い。

■ギンブナ



全長15～40cm。コイに似るが口ひげがない。雑食性で成長が早い。オスが少なく、関東には全くない。メスだけで子孫をふやす。水質汚濁に強い。

■コイ^外



全長40～80cm。二対の口ひげがある。フナよりも淀みや深いところを好む。雑食性で、水質汚濁に強い。

■メダカ



全長4~5cm。河川の変化、水質汚濁などで減少。絶滅危惧種。雑食性。現在の野川のは移植されたものと思われる。浅く、流れのゆるいところを好む。地域個体群間の交雑が多い。

■ナマス



全長50~70cm。4月頃多摩川より産卵のため大挙して野川に押し寄せる。夜行性でエビ・魚・カエルなどを貪欲に食べる。元々は関西の魚で、江戸時代に食文化と共に関東に入ってきた。口ひげは上と下に計4本だが、稚魚の時は6本ある。

■スミウキゴリ



全長8~15cm。野川ではヌマチチブと並んで生息数の多いハゼの仲間。第一背びれの後端に黒斑がないことで良く似ているウキゴリと判別する。

■アユ



全長15~25cm。一年で成長し、その生涯を終えるため年魚ともよばれ、古くより親しまれてきた魚。川底の石に生えた珪藻を食べるため、香りが良く、香魚とも呼ばれる。近年野川にも遡上してきている。

■ドジョウ



全長10~30cm。泥の中を好み、10本のヒゲで餌を探す。野川には砂地を好むヒガシシマドジョウ、湧水域に多いホトケドジョウ（絶滅危惧種）もいる。春に用水路などの細い流れに入り込み産卵する。

■クロダハゼ（トウヨシノボリ）



全長4~6cm。代表的なヨシノボリの仲間。流れのゆるやかな場所に見られる。数は多く、石の下などに卵を産む。

水生動物など

■コクチバス（スモールマウスバス）**特**



全長30～50cm。ブラックバスの名前でも有名。ここ数年、野川でも深みに良くみられる。非常に貪欲であり、生態系に著しい影響を与えている。

スズキの仲間でもあるため、身は淡白な白身で食べるととてもおいしい。

■カムルチー（ライギョ）**外**



全長50～100cm。観賞用に日本に持ち込まれた。まるでヘビのような顔から外国では「スネークヘッド」と呼ばれる。非常に貪欲であり、小鳥やネズミまでなんでも食べてしまう。

■ハグロトンボ（幼虫）



カワトンボの仲間で、成虫は真っ黒なはねでヒラヒラと舞うトンボ。棒状の体が特徴で5cmほどにもなる。水際の草に産卵することから、草刈で水際の草に配慮するようになってから数が増えた。

■シオカラトンボ（幼虫）



水質の悪化には強く、水たまりでも成長できる丈夫な種類。ボウフラなど小さな生物を食べる。成虫のオスは水色で、成熟したメスの多くは黄色であり別名「ムギワラトンボ」とも呼ばれる。

■ガガンボ科（幼虫）



種類は多いが、分類は難しい。川の淀みや池沼にみられ、比較的きれいな水を好む。

■オナシカワゲラ属（幼虫）



幼虫での同定は難しい。羽化時期がずれるため、一年中見ることが出来る。水のきれいな川の流れのゆるやかな石の下や落ち葉の下に生息する。

■ユスリカ科（幼虫）



種類はきわめて多い。体色が赤いものは血液にヘモグロビンを含み、貧酸素に耐えるため汚濁水域にもいる。吸血はしない。

■ニンギョウトビケラ属（幼虫）



体長10～12mm。石粒で巣をつくる。川の上流～中流の比較的ゆるい流れにすみ、きれいな水を好む。

■コカゲロウ属(幼虫)



体長ほぼ10mm以下。野川にはサホコカゲロウなどがあるが分類は難しい。体は小さく、泳ぐのに適した体型をしている。石に付着する珪藻などを食べる。

■ヒゲナガカワトビケラ(幼虫)



体長約4cm。大小の石をランダムに糸で組み合わせた巣を作る。
長野県ではザザムシと呼ばれ古くから食用とされている。

■ヒラタドロムシ属(幼虫)



体長10mm程度。石の裏にぴったりと密着して生息している。水のややきれいな場所にいる。

■ウシガエル 特

北アメリカ原産。食用として輸入され、逃げ出した。夜になると牛のような声で鳴いているカエル。アメリカザリガニは本種の餌として輸入された。オタマジャクシも巨大である。今では全国に広がり、貪欲に他の生物を食べてしまっていることから特定外来生物に指定されている。



■アズマヒキガエル



「触るとイボがうつる」などと言われているが、実際にはうつらない。西日本ではニホンヒキガエル、東日本では亜種であるアズマヒキガエルが一般的なヒキガエルである。

他の両生類同様、細菌などから身を守るために皮膚からブフォトキシンという毒を出す。また猫などに襲われた際は耳腺からこの毒汁を出して身を守る。

水生動物など

■クサガメ 外



江戸時代に中国から観賞用として入ってきた。捕まえると臭いにおいを出すためクサガメと呼ばれる。黒化型のオスは特に臭い。

■スッポン



野川にとっては貴重な在来種の一つ。甲羅が柔らかく、泥底を好む。古くから日本人に親しまれてきた。とても臆病ではあるが、不用意に掴むと、他のカメ類と違い、かなり首が回るため噛まれることがある。

■ミシシippアカミミガメ 外



北アメリカ原産。子ガメはミドリガメの愛称で売られている。30cmにもなり、他の動植物を食べてしまう。繁殖能力が高く、日本の生態系に深刻なダメージを与えている。

■アオダイショウ



本州最大のヘビで体長は2mに達する。無毒であるが、気性は荒く、不用意に掴むと噛まれる。幼蛇の頃はマムシに擬態している。野川では他にもシマヘビ、ヒバカリが観察されるが、いずれも無毒。

■ニホンカナヘビ



15~20cm。天気の良い日に護岸の上でヒガシニホントカゲと同様、日向ぼっこしている姿をよく見かける。名前にヘビとついているが、ヘビではない。日本固有種。小さな虫を食べる。

■ハグロトンボ



名前のようにはねの黒いトンボ。オスのはねは、やや青紫色。メスは褐色がかっている。未熟な成虫は水辺から離れた暗がりをお好むが、成熟すると明るい水辺でなわばりを持つ。5月中旬～10月頃まで水生植物の生育する水のきれいなゆるい流れに生息する普通種。

■シオカラトンボ



オスはシオカラトンボ、メスをムギワラトンボと呼び、分けることもある。野川周辺や住宅地などで、4月頃～10月まで見られる最も普通なトンボ。

■ミヤマアカネ



ミヤマと名前があるが、深い山にはいない。川べりや調節池の田んぼにいる。はねに幅の広い褐色の帯がある。6月～11月頃まで見られる。

■ギンヤンマ



夏の水辺で見られる代表的なヤンマで、5～9月頃まで見られる。近年は水田などの減少により少なくなった。成虫のオスの腹部は美しい青色、メスは黄緑色で区別できる。

■ナツアカネ



赤トンボは秋に生まれると思われがちだが、6月頃の羽化のあと山地へ行く。秋風が吹く頃に体は赤くなり、平地で見られるようになる。成虫は6～12月頃まで見られる。

■ヤマトクロスジヘビトンボ



成虫は水辺の葉上に静止し、幼虫は水中に生息する。5月頃から発生する。

■オオセイボウ



体は青緑色と紫色に輝く美しいハチで、土手の野草やいろいろな花に来る。このハチは巣を作らずにスズバチの巣に直接産卵して寄生する。

■ハラアカヤドリハキリバチ



頭部と胸部は黒く、腹部が赤褐色のハキリバチで、いろいろな野草の花に来る。

■ナミテントウ



成虫で越冬し、5月～11月まで活動する。成虫も幼虫もアブラムシを食べる益虫で、個体によって斑紋に変異が多い。

■キボシカミキリ



川岸のクワやコウゾなどの材部を幼虫が、樹皮を成虫が食べる。成虫は5月～11月頃まで見られる。

■ゲンジボタル



強く光るホタルで夏の風物詩として知られる。6月頃羽化して発光する。河川環境が悪化すると生育できなくなる。野川のホタルは、ほとんどが飼育、放流されたと思われる。

■アカガネサルハムシ



頭部と胸部は金緑色で、はねは赤銅色と緑色に光り美しい。成虫は5月頃～8月まで発生しノブドウやエビヅルなどの葉を食べる。

■アカスジキンカメムシ



成虫は美しいカメムシで、コナラやエゴノキなどの果実に針のような口を刺して汁を吸う。幼虫で越冬し、ミズキの若葉の頃に大きくなった幼虫が見られる。

■アカスジカメムシ



成虫は黒地に赤いすじがあり、よく目立つカメムシ。ヤブジラミなどゼリ科の植物の花上に見られる。

■アオスジアゲハ（写真左の3頭）、アゲハ（ナミアゲハ）、キアゲハ（写真右の1頭）



雨上がりなど急に気温が上昇した晴天の日には、川岸の湿地にアゲハ類が吸水に集まる。

■カラスアゲハ



はねの表は青緑色で美しく、春にはツツジ、夏にはネムノキやクサギなどの花に吸蜜に来るほか、湿った地面で吸水することもある。

■ツマキチョウ



春の短い間だけ発生する小さな白いチョウ。はねの先がかぎのようにとがり、オスには黄色の模様がありメスには無い。アブラナやスミレの花を訪れ蜜を吸う。地上3m位のところをほぼ水平に飛ぶ。幼虫の食草はタネツケバナなどのアブラナ科の植物。

■スジグロシロチョウ



春から秋まで年に4回発生する白いチョウ。よく見るとはねに黒いすじがある。幼虫はイヌガラシやオランダガラシ（クレソン）など野生のアブラナ科が食草。

■キタキチョウ



川岸の草地や低木のまわりなどに見られる黄色いチョウで、幼虫はネムノキやヤマハギなどマメ科の植物を食べる。年に4~5回発生し成虫で越冬する。

■ベニシジミ



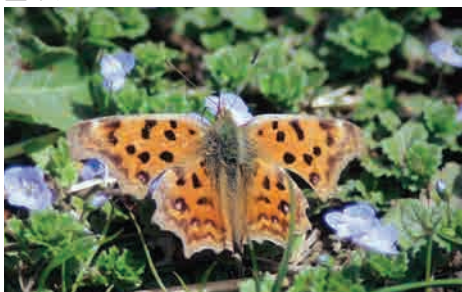
草地をチラチラと飛びながらタンポポなどいろいろな花の蜜を吸う。草に止まって、はねを開くことがある。年5回発生し、幼虫はスイバなどを食草とし、幼虫で越冬する。

■ツバメシジミ



草地などに多く、ヒメジョオンなどいろいろな花で吸蜜する。名前の由来は、うしろばねに尾状突起があることで、同じような所にいるヤマトシジミと区別できる。年4回発生、幼虫の食草はメドハギやカラスノエンドウなどで幼虫で越冬する。

■キタテハ

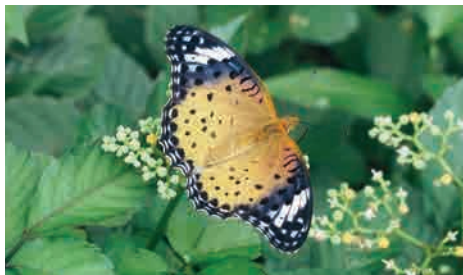


川べりの草の茂みや草の上を活発に飛ぶ茶色いタテハチョウ。幼虫はカナムグラを食草として、年に2回発生し、成虫で越冬する。

■ツマグロヒョウモン



1990年頃から関東地方に広く見られるようになったチョウで、年に3~4回発生する。幼虫はスミレの葉を食草として育つ。川べりや土手の草花で吸蜜したり草上に止まる。オスは、はねが橙色であるが、メスには前ばねに青と白の紋様がある。幼虫で越冬する。



■ヒメウラナミジャノメ



草地や土手の低い草の上を飛び跳ねるように飛び、ときどき草に止まってはねを開いたりする。年に3回発生し、チヂミザサなどを食草とし、幼虫で越冬する。

■ギンイチモンジセセリ



オギやヨシの茂みの中などを弱々しく飛ぶ。あまり目立たないチョウで発生する所は限られていて遠くへは行かない。年に2回発生し、幼虫で越冬する。

■イチモンジセセリ



草地や水田などに多くいて、イネの害虫として有名。成虫は夏から秋にかけて多くなりアベリアやハギなどいろいろな花の蜜を吸う。幼虫で越冬する。

■ミヤマチャバナセセリ



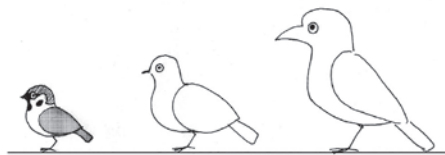
野川沿いの草地の上を素早く飛び、ときどき草の葉に止まる。イチモンジセセリより少し大きく、うしろばねの白い紋様で本種と分かる。年に2回発生し幼虫の食草はススキ。

鳥の大きさ



鳥の全長は、鳥を仰向けにした時のくちばしの先から尾の先までの長さです。

ものさし鳥



スズメ
全長14cm

ハト
全長33cm

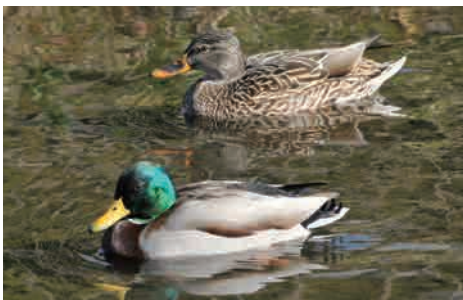
カラス
全長56cm

■カワウ



留鳥 全長82cm (カラスより大)
雌雄同色。
グルルル・・・グアグアと鳴く。
潜水して魚を食べる。
尾脂腺が未発達なので時々翼を広げて乾かす。

■マガモ



冬鳥 全長59cm (カラスより大)
ゲエゲエ・グエッグエツと鳴く。
イネ科植物の種などを食べる。アヒルは中国でマガモを飼育して家禽化したもの。
野川で冬以外にみられるマガモによく似たカモは雑種であることが多い。

■カルガモ



留鳥 全長61cm (カラスより大)
くちばしの先が黄色いのが特徴。雌雄同色。
ゲエゲエ・グエッグエツと鳴く。
イネ科植物の種、草の葉などを食べる。
他のカモ類は春に北(シベリアなど)に渡ってしまうが、カルガモは日本で繁殖する。

■カイツブリ



留鳥 全長26cm (ハトより小)
 体は茶色。
 キリリと大きな声で鳴く。
 盛んに潜水して小魚や水生昆虫などを食べる。
 水辺に浮巣を作る。

■コガモ



冬鳥 全長38cm (ハトより大)
 オスは体の中央の白い水平線、栗色の頭部、
 目の周囲が緑色。
 野川で見られるカモでは最小。
 オスはピリッピリッ、メスはグエグエと鳴く。
 藻や草の実を食べる。

■オナガガモ



冬鳥 全長オス75cm (カラスより大)
 メス53cm (カラスより小)
 オスは黒いくちばしの両側が灰色。
 オスはブルブル、メスはグエグエ
 ツと鳴く。
 植物の種や水草などを食べる。水底のもの
 のは逆立ちして食べる。

■オオバン



冬鳥/留鳥 全長39cm (ハトより大)
 黒い全身に白い額、赤い目が特徴。足は青
 みがかった灰色で足の指が長い。雌雄同
 色。キュー・キューと鳴く。
 主に草の実や昆虫を食べる。

■バン



留鳥 全長32cm (ハトより小)
 黒っぽい体、雌雄同色。足は黄緑色で指が
 長い、両脇に白い斑紋があり額が赤い。クル
 ルルツと鳴く。主に草の実や昆虫を食べ
 る。

鳥 類

■コサギ



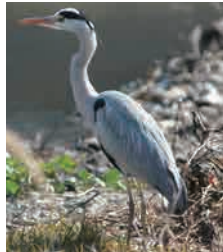
留鳥 全長61cm (カラスより大)
足先が黄色いのが特徴。雌雄同色。
ギャウ、ガアと鳴く。魚類、ザリガニ、
カエル、昆虫などを食べる。野川でみ
られる白いサギの中では一番小さい。

■ゴイサギ (成鳥) ・ (幼鳥)



留鳥 全長57cm。(カラスより大)
ゴアツゴアアと鳴く。雌雄同色。幼鳥は羽に白
い点々があるため「ホシゴイ」ともいう。魚
類、ザリガニ、カエルなどを食べる。夜行性で
日中はじっとしていることが多い。

■アオサギ



留鳥 全長93cm (カラスより大)
日本のサギ類では最大。体は灰色、目の上
から頭部にかけて黒い帯が走る。飛んでい
るときにグワーツと鳴く。水辺を歩いたり
待ち伏せして魚、カエル、鳥のひななどを
食べる。

■ダイサギ



留鳥 全長90cm (カラスより大)
大型の白いサギで秋～冬はくちばしが黄色
いが春～夏にはくちばしが黒く、目のまわ
りが青緑色になる。ガアアと鳴く。魚類、
ザリガニ、カエルなどを食べる。

■イソシギ



留鳥 全長20cm (スズメより大)
目に白いアイリングがある。チーリーリー
と鳴く。河原の草の根元などに簡単な巣を
つくる。水辺を歩き回って浅瀬で飛び交う
ユスリカや水中の水生昆虫を食べる。

■タシギ



旅鳥 (春秋の移動の途中に日本に立ち寄る鳥)
全長27cm (ハトより小)
野川には冬に渡来する。ジェツという声を出して飛び立つ。草陰にじっとして主
に夜間活動で長くくちばしでミミズや昆虫
の幼虫を食べる。

■オオタカ



留鳥 全長50~56cm (カラスと同じ)
胸は淡い灰色で横紋がある。主にハトなど鳥を食べる。
冬には水辺や農耕地、市街地にも表れる里山のシンボル。

■キジバト



留鳥 全長30cm (ハトより小)
雌雄同色。デデ・ポポポーと鳴く。
木の芽や実、様々な草の種などを食べる。
ドバト (カワラバト) は群れることが多いが、キジバトは1~2羽でいることが多い。

■ツバメ (成鳥) ・ (幼鳥)



夏鳥 全長17cm (スズメより大)
尾の長いのがオスで、雌雄同色。チュピッ、ツピッチュクチュクチュクチュイーと鳴く。飛んでいる昆虫類を飛びながら食べる。昔の人は鳴き声を「土喰って虫喰ってしごーい」と聞きなした。

■カワセミ



留鳥 全長17cm (スズメより大)
メスのくちばしの下は赤い、オスは上下とも黒い。ピピピー、ツッチーッと鳴きながら水面近くを直線的に飛ぶ。魚、ザリガニ、水生昆虫などを空中でホバリングしながら水中に飛び込んでとる。
緑色の翼とコバルト色の背、橙色の腹という美しい体色と大きなくちばしが特徴。

■コゲラ



留鳥 全長15cm (スズメより大)
雌雄ほぼ同色。オスは後頭部の左右に小さな赤い部分がある。ギィ・・・と鳴く。主にクモや昆虫類を樹上でとる。枯れ木に穴をあけて巣をつくる。
日本のキツツキ類では最小。



■キセキレイ

留鳥 全長20cm (スズメより大)
雌雄同色だがオスのほうが下腹の黄色みが鮮やか。チチンチチンと澄んだ声で鳴く。水辺の水生昆虫や飛んでいる小昆虫を空中で食べる。



■ハクセキレイ

留鳥 全長21cm (スズメより大)
最近では街なかでも見られ、水辺の水生昆虫や飛んでいる小昆虫を空中で食べる。草地などでも見られる。3種のセキレイの中では一番気が強い。



■セグロセキレイ

留鳥 全長21cm (スズメより大)
日本固有種。ハクセキレイと似ている。雌雄同色だがオスのほうが若干黒い。ピィピチュイビュジュジュと濁った声で鳴く。水辺で水生昆虫類を食べる。



ハクセキレイ (左) とセグロセキレイ (右) の違い

ハクセキレイは白い顔、セグロセキレイは黒い顔に白い眉。

■ヒヨドリ



留鳥 全長27cm (ハトより小)
雌雄同色。ピーヨピーヨと大きな声で鳴く。集落周辺に住み昆虫や木の実、花の蜜や花などさまざまなものを食べる。公園、街路樹、軒先にも来る。

■ツグミ



冬鳥 全長24cm (ハトより小)
雌雄同色。クイックイッ、クワツクワツと鳴く。木の実、ミミズや昆虫の幼虫を土から掘り出して食べる。



■ウグイス

留鳥 全長12cm（スズメより小）
羽は茶色で一般に言われる鶯色ではない。雌雄同色。地鳴きはチャチャ、繁殖期はホーホケキョと鳴く。主に昆虫類を食べる。



■シジュウカラ

留鳥 全長15cm（スズメより大）
雌雄同色。のど元から腹にかけてのネクタイの太いのがオス。ツープーツープーやツツピーツツピーなどと繰り返し鳴く。昆虫、クモ、草木の種や実を食べる。



■メジロ

留鳥 全長12cm（スズメより小）
上面が一般に言われる鶯色、目の周りの白いリングが目立つ。チィと鳴く。雑食性で昆虫、木の実などを食べるが椿、梅などの花蜜をよく吸う。



■カワラヒワ

留鳥 全長15cm（スズメより大）
雌雄同色。チュウウィーン、キリ・コロコロと鳴く。樹上や地上で草木の種を食べる。秋冬は群れていることが多い。街中でも普通に繁殖する。

鳥 類

■スズメ



留鳥 全長14cm
チュンチュン、チュンチュンと鳴く。
昆虫、草木の種などを食べる。

■ムクドリ



留鳥 全長24cm (ハトより小)
黄色いくちばしと足がよく目立つ。雌雄同色。リヤーリヤーと騒がしく鳴く。草地などの土中の昆虫や木の実などを食べる。秋冬には群れてでねぐらをとることが多い。



■ユリカモメ

冬鳥 全長40cm (ハトより大)
ギッ、ガーと鳴く。
小魚・昆虫、時にはゴミも食べる。
成鳥は、赤い細いくちばしと足が特徴。
頭、首、下腹は白だが体の上面は淡青灰色。

■ハシボソガラス



留鳥 全長50cm
雌雄同色。ガアア・ガアアと濁った声で首を上下させて鳴く。雑食で木の実や種、昆虫なども食べる。ハシブトガラスと同様に貯食行動を行う。

■ハシブトガラス



留鳥 全長56cm
雌雄同色。カアカアとすんだ声で鳴く。雑食性が強い。ゴミ箱をあさり脂肪分の多いものを食べる。本来は草木の種や実、昆虫、死んだ魚類や小動物などを食べる。

■カラスの区別



ハシボソガラス (左)
額からくちばしにかけての線がなだらか。

ハシブトガラス (右)
額が出っ張っていて、くちばしが太い。



ギンイチモンジセセリ

写真をご提供いただいた方(敬称略 五十音順)

安達 榮一、阿部 正敏、石川 和宏、磯邊 隆、井上 純三、
今田 裕実子、大橋 田鶴子、大山 学、加藤 衛、久保 快哉、
城井 豊子、清水 徹男、高木 嘉雄、中西 修一、新里 君江、
原田 欣典、平井 正風、喜園 晶子

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

2004年3月（初版）

2018年9月（増補改訂）

問合せ先

野川流域連絡会事務局
東京都北多摩南部建設事務所工事第二課
042-330-1845

無断で複写・転載することを禁じます。